

J A 菊池女性部助け合いの会企画 復興支援で東北へ



ここまで海水が来ました
(海拔約22.6メートル)



防災対策庁舎

語り部の方



旧戸倉中学校



げいびけい 登米・南三陸と狛鼻溪・中尊寺 3日間の旅に参加して

菊池中央支所助け合いの会会長 光永順子

東日本大震災(2011年3月11日14時46分18.1秒)の発生から12年。震災2年後に、助け合いの会は参加者を募り、復興支援の旅として訪問しました。その訪問から10年が経ち、再度復興支援の旅として2023年12月6日～8日に行ってきました。

前は、まだまだ生々しい爪痕が残っていましたが、今回は復興の証がいたる所に見えていました。旧戸倉中学校は避難所となっており、語り部の方から当時の状況を写真を見ながら説明を受けました。津波の到達ラインを見つめ再び涙する場所となりました。

南三陸町の防災対策庁舎は骨組みがそのまま残されており、最後の最後まで、防災無線で町民に避難を呼び掛け続けた女性の声が聞こえるようでした。

陸前高田市では、奇跡の一本松の近くまで行くことができましたが、その周辺は広々とした公園となり、家は建てることのできない地域となっていました。

現場に立って、いろいろなことを考えさせられました。そして、被災地のためにできることは何なのか…。私たちは熊本地震も体験しています。いつどこで、何が起こるか分からない現代です。助け合いの会の合言葉『できる人が できるときにできることを』を日ごろから心に唱え、仲間づくり、地域づくりをすることの大切さを感じました。

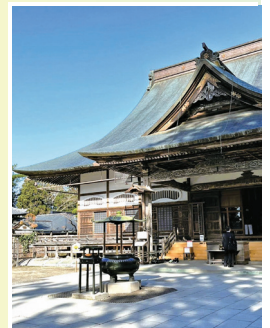
平泉では中尊寺の金色堂や毛越寺(もうつうじ)の歴史を散策し、狛鼻溪(げいびけい)舟下りは癒しの時間となり、観光や買い物もできました。命の尊さを感じ、災害から命を守るという大切な想いと共に、心に深く残る旅となりました。



奇跡の一本松公園



みやぎの明治村 教育資料館



中尊寺 本堂



狛鼻溪 舟下り

※50mを超える石灰岩の岸壁が約2km続く溪谷。船頭が、棹一本で操る舟下り。12月から「こたつ舟」でした。